

# 令和5年度 訪問介護事業所あいの会事業計画

## 1.職員体制(2023.5.20時点)

・サービス提供責任者	3名	(梅田・浅井・山本)
・訪問介護員	3名	(吉本・大橋・山田理)
計	6名	

## 2.事業計画概要

2022年5月分より特定事業所加算Ⅱ(10%)の取得を行って来たが  
2022年度は事業所単体で138,732円の赤字となった

職員の退職や、デイサービスの一時休止等の周辺状況に鑑みるに  
今年度は更に赤字解消の為の努力が必要となる事が予想に難くない

だがしかし、一昨年2021年(令和3年)度が1,310,220円の赤字  
だった事と比較すると、赤字幅は概ね1/10程度迄縮小出来ており、  
これは間違いなく大きな進歩と言える

日々、懸命に努力して下さっている職員一人一人に対して、  
まず初めに、謹んで最大限のお礼と敬意の念を表したいと思う

その上で、赤字を無くし利益を出していく為に、引き続きのご協力を  
お願ひしたいと思う

既存の戦力で効率よく売上げを上げ、利益を追求していく為に、  
今年度は昨年度にも増して、従来の方法や慣習にとらわれる事の無い  
柔軟な発想で、現在の組織や個々の業務内容を、再度各論で見直し  
「質は落とさず、いかに省力化や効率化出来るか」という事を  
以下に述べる取り組みを通じ取り組んでいく

## ◎効率化・省力化・経費削減

現状、日中はサ責を含め職員全員が現場に出ている為、書類作成や  
関係事業所への報告、連絡等に掛かる時間を、いかに省力化出来るかが  
直近の課題としてあげられる為、具体的には、

- ・提供票の内容の見直し、簡略化
  - ・利用者別グループLINEへのケアマネジャーの参加
  - ・アセスメントシートの内容の見直し、簡略化、作成までの流れの見直し
  - ・訪問介護計画書の見直し、簡略化
- 等の点に取り組む事で余剰時間を捻出し、それを売り上げ拡大や  
経費削減、及び職員の負担軽減等につなげて行く

## ◎個々の資質・事業所全体の資質の向上

昨年度に引き続き、職員各位が自分が苦手だと思う分野の外部研修に、  
年1回以上全員が必ず参加して見分を広め、介護技術や知識の向上を  
図ると共に、YouTubeや各種SNS等を活用し、各種内部研修を充実させ、  
個々の資質の向上、ひいては事業所全体のレベルの向上を目指していく

また、一人一人が「組織人」であるという意識をしっかりと持ち、  
「世間一般通念上当然とされている必要最低限のビジネスマナー」の  
理解や習得を行い、意識レベルの向上も目指していく

## ◎情報共有・連携の強化・ICTの活用・ペーパレス化の推進

昨年度の目標としていた、各利用者ごとのグループLINEの運用やサービス実績や報告書の送付、提供票の受領等をメールでのやり取りへの移行については、概ね上手く運用が出来る迄になった

今年度はそれを更に進化させ、利用者別のグループLINEへ、ケアマネジャーの他、デイサービスや福祉用具等の関係事業所にも参加してもらい、より新鮮な情報を、スムーズに共有し連携していく仕組み作りを行っていきたい

また、利用者に係る情報(利用者情報、サービス実績、工程表、計画書、アセスメント等)を順次データ化する方向で進め、最終的には各職員のスマホで全ての利用者情報が確認出来る仕組み作りを行っていきたい

## ◎適正、厳格な不公平感の無い評価体制の検討・確立

昨年度は、ヘルパーを対象に行っている自己評価に、第三者評価を加える形で実施したが、今年度は職員数の減少や、職員全員が現場に出ている事を踏まえ、それを更に進化させ、従来の自己評価に加え、全職員を対象にした「他個評価」の形でも実施したいと考えているこれにより、職員個々の「見せ方・見られ方」の部分の意識の向上と自己の「強み」「弱み」を真摯に冷静に受け止め、分析する事で、「仕事の質」の向上へ繋げていってもらう効果を期待すると共に、より不公平感の無い、根拠のある評価体制の構築を目指していく

## ◎職員の負担軽減、働きやすく楽しい職場環境づくり

良い介護を行う為に一番必要な事は、介護の技術や知識ではなく、介護する側のメンタルが安定しており、介護される側が安心出来る介護を提供する事である

その為には、まず職員自身とその家族が安寧な状態である事が、一番大切な事であり、限られた人員であるからこそ、互いにカバーできる体制を構築していく事が重要となる為、「誰かしか出来ない仕事」を作ってはならない職員自身やそのご家族の事を最優先と考え、いつ誰に何が起こっても気兼ねなく休みが取れ、各々の仕事が滞らない様にする為にも、全ての業務においてのチエイサー制度を構築していく事を目指していく

仕事を「楽(たの)」しむという事は「楽(らく)」をするという事ではない「楽(らく)」の先に「楽(たの)」しさは無い  
今の自分の持てる力を全て発揮し、今出来るベストを尽くしたその先にこそ真の「楽しさ」があり、それが分かるのは、その仕事を離れてふとした時に、「しんどかったけど楽しかったな」と思えて初めて分かる事である

少数ではあるが、選りすぐりの精鋭ぞろいの訪問介護事業所である一人一人に掛かる負担は増加しているが、個々の能力の高さをもってすれば超えられない壁は無いはずと信じている  
互いに助け合い、思い合い、本当の意味での「楽しい」職場環境づくりを目指し、今年度も職員一丸となり頑張っていく